



風水害&土砂災害

▶ あらかじめ知っておこう！

警戒レベル

警戒レベルとは、危険区域に住んでいる住民などが、災害発生の危険度を理解し、避難行動等がとれるよう5段階にレベル分けした防災情報です。

町が発令する避難情報や気象庁が発表する気象情報を「警戒レベル」を用いて伝達し、危険区域に住んでいる住民などが取るべき行動を警戒レベルの段階に応じて明示しています。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動等	避難情報等	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)
5	災害発生 または切迫	命の危険 直ちに安全確保！ ●警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ●警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません！ ●ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保 (町が発令)	5 相当 大雨特別警報 (土砂災害)
＜ 警戒レベル4までに必ず避難 ＞				
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難 ●警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示 (町が発令)	4 相当 土砂災害 警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ●「高齢者等」は、障がいのある人や、避難を支援する者も含んでいます。 ●さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難 (町が発令)	3 相当 大雨・洪水警報
2	気象状況 悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報 (気象庁が発表)	2 相当
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁が発表)	1 相当

※町長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

気象庁キキクル(危険度分布)で、お住まいの地域の状況を確認しましょう

大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを地図上で視覚的に知ることができる情報で、気象庁のホームページで公開されています。

大雨による土砂災害の危険度は、「土砂キキクル」、短時間の強雨による浸水害の危険度は「浸水キキクル」、河川の洪水災害の危険度は「洪水キキクル」で確認することができます。

気象庁から市区町村単位の警戒レベル相当情報※が出されたら、お住まいの地域の状況が詳細にわかる情報「キキクル」で確認してください。紫色は危険度が高いことを示しています。

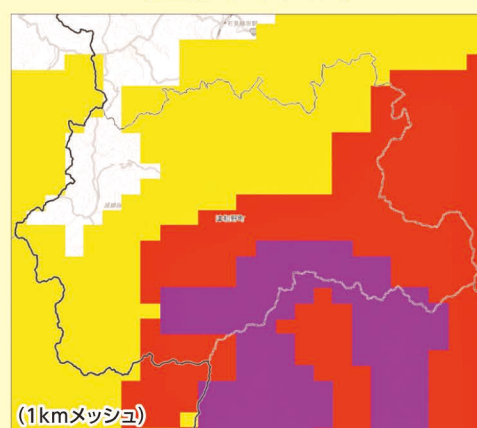
住所を登録しておけば、お住まいの地域が危険になったら自動的にスマートフォンに通知される「危険度分布通知サービス」もありますので、ご活用ください。



キキクル

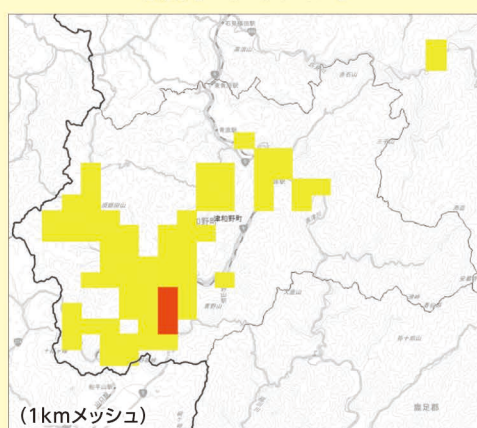


【土砂キキクル】



紫: 崖・渓流の近くは危険

【浸水キキクル】



紫: 低地は危険

【洪水キキクル】



紫: 河川沿いは危険

※市区町村単位で発表される情報には、大雨特別警報、土砂災害警戒情報、大雨警報、洪水警報などがあります。

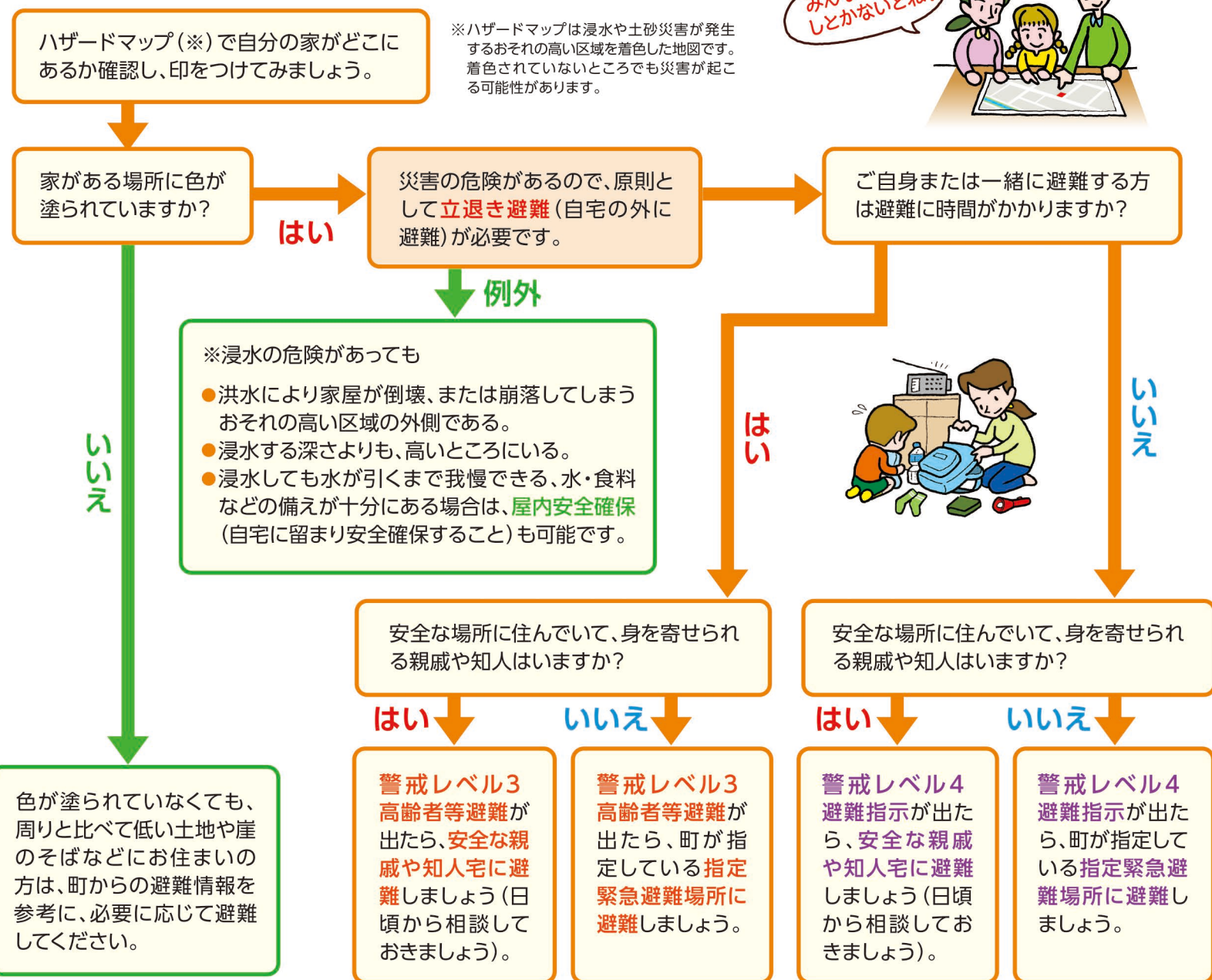
【画像: 松江気象台 提供】

避難行動判定フロー

普段から確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

●あなたがとるべき避難行動は？



雨や風、台風の強さ、線状降水帯のことを知っておきましょう

雨の強さと降り方(1時間雨量:mm)

10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上～
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
ザーザーと降り、地面からの跳ね返りで足元が濡れる。	土砂降りでも傘をさしても濡れる。地面一面に水たまりができていく。	バケツをひっくり返すように降る。道路が川になる。	ゴーゴーと滴る。傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感があり、大規模な災害が発生する可能性がある。

※表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量や地形・地質などの違いによって、被害の様子は異なることがあります。【イラスト: 気象庁提供】

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が、数時間にわたり、ほぼ同じ場所を通過、または、停滞することで、線状に伸び強い降雨をもたらす現象。大雨による災害発生の恐れが急激に高まる場合があります。

顕著な大雨に関する気象情報

大雨による災害発生の恐れが急激に高まっている中で、「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報。警戒レベル4相当以上の状況で気象庁が発表します。

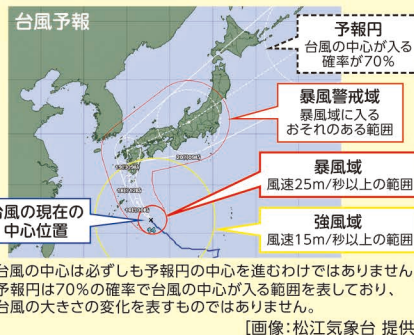
風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

10m以上～15m/秒未満	15m以上～20m/秒未満	20m以上～25m/秒未満	25m以上～30m/秒未満	30m/秒以上～
やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風	猛烈な風
風に向かって歩きにくくなる。樹木全体が揺れ始める。	風に向かって歩くことが困難。看板やタン板が外れ始める。	何かにつかまっていられないと立ってられない。瓦など飛散するものがある。	立ってられない。樹木が倒れることがある。	屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。

※表に示した風量と同じであっても、地形・地質などの違いによって、被害の様子は異なる場合があります。【イラスト: 気象庁提供】

台風の大きさと強さ

- 台風の大きさ(風速15m/秒以上の半径)
500km未満 …… 大きさの表現なし
500km以上 800km未満 …… 大型(大きい)
800km以上 …… 超大型(非常に大きい)
- 台風の強さ(最大風速:m/秒)
33m/秒未満 …… 強さの表現なし
33m/秒以上 44m/秒未満 …… 強い
44m/秒以上 54m/秒未満 …… 非常に強い
54m/秒以上 …… 猛烈な



※台風の中心は必ずしも予報円の中心を進むわけではありません。※予報円は70%の確率で台風の中心が入る範囲を表現しており、台風の大きさの変化を表すものではありません。【画像: 松江気象台 提供】